

市政一新！



さとう伸一 54才

発行者 市民がつくるはだの未来
代表 佐藤伸一
秦野市鶴巻南 1-9-16
TEL 080-2052-9205



ホームページはこちらから

さとう伸一通信 No.4 合併号
No.5

秦野市役所 32 年奉職

コロナ禍で苦しむ市民を救う政策がなおざりで身内に甘く、改革の意欲もない現市政に憤り。政治に身を捧げる決意を固め、本年 4 月退職。

1967 年 1 月 23 日鶴巻生まれ

大根小・大根中・日本大学藤沢高校・日本大学法学部
政治経済学科卒業・早稲田大学大学院公共経営研究科修士卒業

ビジョンなき 放漫財政の現市政では衰退！

秦野市は年少人口が激減していく予測を立てています。その予測は過去から現在への延長線上に未来を予測したに過ぎないので、将来のビジョンもなければ、現状を変えなければならないという危機意識ありません。今の市政の延長線上に希望ある秦野の未来を描くことはできません。

市では 10 年後の中学校給食の必要数が 1,051 食減少すると予測していながら、中学校給食に関連する巨額の負債を負いました。ビジョンのない現市政では、将来にわたって中学校給食を維持していくことはできません！

この子が大きくなる頃にも給食は続いているの？

残念ながら今の市政では困難です。

まず、年少人口が激減する前提で総合計画を立てていること自体、間違っているからです。

今の市政に欠けているもの

- × 市民感覚に欠け、一部職員を優遇
- × コロナ禍における独自対策に欠ける
- × 行財政改革の意欲・実績がない
- × 重要な情報のネット公開がない
- × 予算措置に迅速性・メリハリがない
- × 持続可能な財政運営の道筋がない
- × 自主財源増加のための政策がない
- × 市民の力を引き出す政策がない
- × まちづくりの将来ビジョンがない
- × ハコモノ行政への逆行（施設を 3 つ建設）

秦野市は年少人口の激減を予測

年少人口（0～14 才）	実績と市の予測
平成 17 年（2005 年）実績	22,028 人
令和 2 年（2020 年）実績	18,145 人
令和 12 年（2030 年）予測	15,291 人

「秦野市総合計画（2030 プラン）」より抜粋

秦野市は中学校給食の必要数の激減を予測

年度	生徒数	教職員	食数
令和 3 年度	4,200	317	4,517
令和 8 年度	3,887	287	4,204
令和 13 年度	3,149	317	3,466

「秦野市学校給食センター施設整備及び運営事業実施計画」より抜粋

市は 10 年間で 1,051 食も減少することを予測。

さとう伸一は、望ましい未来の姿から政策を立案します！



さとう伸一のバックキャスト・ビジョン

年少人口（0 才～14 才）令和 2 年実績 18,145 人

さとう伸一のビジョン

令和 12 年 20,000 人
令和 17 年 25,000 人

現市政の予測

15,291 人
考えていない

現市政は、年少人口が激減することを予測している一方、20 年間で 80 億もの債務を負ってハコモノを建てました。

理想の子供の数（3 人）
予定の子供の数（2 人）
実際の子供の数（0～1 人）

子供はほしいけれど経済的理由で育てられない……

年少人口の積極的な目標値がなぜ重要なのか

- ▶ 「子供は減少する」固定観念がさらなる危機を生む
- ▶ その固定観念が原因となり、地域社会は益々衰退

目標を達成していく過程で何が生まれるか

- ▶ 地域に活力が生まれてくる
- ▶ 衰退から成長へ転換していく
- ▶ 地域を支える若者たちが増えていく
- ▶ まち全体の「福祉力」が向上する

バックキャストとは

現在から未来を考えるのではなく、「未来のあるべき姿」から「未来を起点」に解決策を見つける思考法

子育てをする家族が「豊か」に暮らせるよう、全力応援します！

さとう伸一は「バックキャスト・ビジョン」から提案します。

1 「身を切る改革＋行財政改革」でコロナ禍に苦しむ市民へ還元すべき

- 4 年に 1 度、1 千数百万円が支給されている市長の退職金は返上すべき！
- 朝夕の市長公用車送迎即廃止、職員の定年退職延長を即廃止すべき（人件費増を市民福祉向上へ）
- 徹底した行財政改革で費用対効果の低い事業を見直し、廃止すべき
- 独自の経済対策、家計支援対策を推進すべき

2 15 年後の未来を見据えた「成長戦略」で、秦野を全国区に！

- 地域コミュニティ通貨（電子地域通貨）の活用でまちづくり地域経済循環を
- DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した企業変革力支援を
- 地元雇用を生む企業誘致、施設再整備を
- シティプロモーションの推進を
- 命をはぐくむ農業支援を
- 若者が提案参加できるまちづくりを

3 住みたいまちナンバーワンへの提言

- 高校 3 年生（18 歳年度末）まで医療費を無料に
- 給食費無料で義務教育を完全無償化へ
- 秦野赤十字病院等、医療現場の課題解決を
- ジェンダーレス制服の推進を
- 子育て世帯（0 歳児）に紙オムツ等の無料支給を
- 保育機能の充実により待機児童ゼロへ
- 感染第 6 波に備えた施設整備を